

令和4年度（2022年度）行政評価シート

令和4年7月29日

評価者	まちづくり計画部長 林浩一
-----	---------------

○ 施策の概要

総合計画上の位置付け	分野	5-(3) 総合交通	施策の方針	5-(3)-①交通環境の整備
目標とするまちの姿	交通安全意識の普及徹底を図るとともに、交通需要マネジメント施策が進み、交通環境の改善が図られています。特に新たな交通(移動)システムや手段が有効に機能し、鎌倉らしい交通環境整備が進んでいます。			
主な取組	<p>(1)交通需要マネジメント施策の推進 (仮称)鎌倉ロードプライシングや新たな交通(移動システム)の導入を目指すなど、自動車利用を抑制する等の交通需要マネジメント施策を推進し、交通環境の改善を目指します。また、長期的な交通体系について検討するとともに、自動運転やMaaSなど、次世代型のモビリティを見据え、高齢者、障害者、子どもなど交通弱者に配慮し、すべての人にとって快適な移動環境の創造を目指します。</p> <p>(2)歩行者を優先した交通体系の確立 生活道路への通過車両進入を抑え、安全で快適な市民生活を確保するため、地域住民、関係機関と協働し、歩行者を優先した交通体系を目指します。 また、駐輪対策を進め、歩行者が安心して歩ける空間を確保します。</p> <p>(3)交通安全意識の醸成 交通事故防止運動や自転車教室等を実施し、交通安全意識を醸成し、交通事故件数の減少を目指します。</p>			

1 成果指標

成果指標①	市内における自動車の旅行速度					出典	ETC2.0を搭載した車両の走行データ		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
平成29年4月～平成30年3月の休日118日間の平均	km/h	目標値	18.1	18.1	20.0	20.0	20.0	20.0	新型コロナウイルス蔓延の影響で、従来の交通動態が把握できなかったため未実施。
18.1		実績値	未実施	未実施					
		達成率	—	—					
成果指標②	幹線道路については、スムーズな交通環境が、また、生活道路については、安全な歩行空間が、確保されているまちだと感じている市民の割合					出典	市民アンケート調査		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
令和2年1月	%	目標値	14.5	15.5	37.0	38.0	39.0	40.0	
13.5		実績値	未実施	18.8					
		達成率	—	121.3%					
成果指標③	新たな交通(移動)システムや手段を導入した地区数					出典	オンデマンドモビリティ等の市内の導入実績		
初期値	単位	年次	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
令和元年度	地区	目標値	0	1	2	3	3	3	
0		実績値	0	0					
		達成率	—	0.0%					

2 投入コスト

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業費	545,890	87,055				
人件費	83,982	71,967				
総事業費	629,872	159,022				

3 担当部評価

(1)「施策の方針の成果指標」の達成状況等を踏まえた施策の達成状況の分析

まちづくり計画部

まちづくり計画部では、目標とするまちの姿の実現に向けて、鎌倉市交通安全計画、鎌倉市交通マスタープラン、鎌倉市オムニバスタウン計画等に基づく事業を推進することで、交通環境の改善や、鎌倉市の特性を踏まえた交通環境等が整備されると考えている。

成果指標の令和3年度目標値について、個別事業に紐づく指標である成果指標①については指標データ未取得であり、同じく成果指標③については目標値を達成できなかった。

新交通システム等整備事業では、前年度の成果を踏まえ、有償での新交通システム導入実証を行う予定だったが、有償事業の枠組みが整わなかったことから試験運行を実施せず、成果指標③を達成できなかった。今後は、地域の方々や公共交通事業者と連携を図り、本格運行に向けた枠組みの検討を進める。

一方、複数の事業により総合的に達成される成果指標②については、目標値を上回っている。交通体系整備事業では、短期的観光渋滞対策として、休日に鎌倉地域に流入する車両の運転手等に対し、ラジオ番組によりリアルタイムの道路交通情報を提供する新たな取組を行い、施策の目標達成に貢献した。

また、交通安全対策事業では、スクールゾーンの交通安全対策としてカラー舗装等の実施や通学時間帯に富士見町駅下横断歩道に交通誘導員を配置するなど、交通安全対策に係る各種事業を着実に推進した。さらに放置自転車防止事業では、駐輪場への誘導及び放置自転車等に対する警告や移動等を実施した。交通環境改善のため、これまで交通安全対策や放置自転車対策事業を継続的に実施してきたことから、これら事業が成果指標の数値を押し上げ、施策の目標達成に繋がったと考えている。

(2)今後の方向性

まちづくり計画部

まちづくり計画部では、施策の目標達成に向け、第4期基本計画の重点事業である交通体系整備事業、新交通システム等整備事業を中心とした交通需要マネジメント施策等を進めてきた。地形的・地理的制約が大きな観光地における交通環境改善は非常に難易度が高いものであり、一昨年度から新型コロナウイルス感染症の蔓延が続いたことによる社会状況の変化等もあるが、依然として目標の達成が困難な状況にある。

目標とするまちの姿の実現に向け実施している様々な施策については、今後も着実な継続や、課題解決に向けた改善を図っていく。

交通環境整備事業では、パークアンドライドを利用できる駐車場の偏りを改善するため、令和3年度(2021年度)に大船パークアンドライドの運用を新たに開始した。新型コロナウイルス流行の影響もあり利用者数が伸び悩んでいるため、今後は事業のさらなる改善を行っていく。

交通体系整備事業では、鎌倉地域の交通渋滞解消に向けた自動車の利用抑制に向け、(仮称)鎌倉ロードプライシング及び短期的に実施可能な交通環境の改善施策の実現に向けた検討を、引き続き推進する。

新交通システムの導入に向けては、地域住民・利用者、交通事業者、鎌倉市が三位一体となった持続可能な運行体制の構築を目指すため、課題の抽出・整理、市民ニーズの掘り起こし、交通事業者の運行状況等の把握を行う「実現化方策検討業務」の実施を令和4年度に予定している。

交通安全対策事業では、市内の交通事故件数が年々減少傾向にあるが、引き続き子どもから高齢者までの各世代に応じた交通安全教育の徹底と充実を図るとともに、自転車の安全な利用の促進に関する施策を推進していく。また、警察、道路管理者、市内交通関係機関等との連携を密にし、総合的かつ効果的な交通安全対策を推進していく。

放置自転車防止事業では、放置自転車等の根絶のため、継続的にマナーを守る意識の高揚を図っていくことが必要不可欠であり、対策を着実に実施する。

(3) 施策の方針にひもづく事務事業の評価結果

重点事業	整理番号	事業名	法定受託事務	事業費(千円)	人件費(千円)	総事業費(千円)	事業評価	貢献度	最終評価
	まち-08	交通環境整備事業		1,356	8,346	9,702	改善・変更	A	改善・変更
重	まち-09	交通体系整備事業		21,063	15,933	36,996	改善・変更	A	改善・変更
重	まち-10	新交通システム等整備事業		72	9,863	9,935	改善・変更	B	改善・変更
	まち-11	交通安全対策事業		15,492	25,144	40,636	現状維持	A	現状維持
	まち-12	放置自転車防止事業		49,072	12,681	61,753	現状維持	A	現状維持

(4) 貢献度に関する分析

まちづくり計画部

まちづくり計画部では、鎌倉市交通安全計画、鎌倉市交通マスタープラン、鎌倉市オムニバスタウン計画等に基づく事業を推進することで、交通環境の改善や、鎌倉市の特性を踏まえた交通環境等が整備されると考えている。

新交通システム等整備事業では、有償での新交通システム導入実証を行う予定だったが、有償事業の枠組みが整わなかったことから試験運行を実施せず、成果指標を達成できなかったため、貢献度はBとした。今後は、地域の方々や公共交通事業者と連携を図り、本格運行に向けた枠組みの検討を進める。

一方、交通体系整備事業については、日本で初めてのロードプライシング導入に向けて非常に高度な課題に直面しているが、解決に向け、国のスーパーシティ構想に応募する等の努力を続けている。また、地域住民や鎌倉を訪れる人に向け、休日のラジオ番組で鎌倉地域に限定したリアルタイムの道路交通情報を放送する新たな取組を行うことで短期的観光渋滞対策を推進し、施策の方針の達成に貢献した。

さらに、交通安全対策事業では、交通事故防止にむけた事業を総合的に展開しているが、特にスクールゾーンの交通安全対策、カラー舗装等の実施や、通学時間帯に富士見町駅下横断歩道で交通誘導員を配置する等によって、歩行者が安心して歩ける空間を確保した。

また、放置自転車防止事業では、放置自転車の見回り、撤去等を行っているが、放置自転車等の根絶のためには継続的な事業実施が不可欠であり、施策の方針の達成に貢献している。